

1 園の経営目標

- (1) 安心安全な環境の下、子ども一人一人が自分のやりたいことを実現したり、身近な人と十分に関わったりするなかで、自分を信じ、人を信頼する心を育て、たくましく生き抜く力の基礎を培う。
- (2) 保護者や地域と保育園が信頼関係を築き、子どもを真ん中にして、共に育ち合う視点を持ち、「元気に遊べる子ども」「意欲のある子ども」「思いやりのある子ども」を育てる。

2 園の現状

- (1) 自然に恵まれた園庭や、落ち着いた保育室で、自分の好きな遊びや場所を見つけ、じっくりと取り組み、友達と一緒に過ごすことを楽しんでいる。異年齢が同じ場で遊び、触れ合うことを心地良く感じながら、憧れや思いやりの気持ちが育まれている。
- (2) 保育者は、子どもの思いを受け止め、応答的に関わり、適切な援助や環境構成を行っている。
- (3) 基本的な感染対策に留意しながら、保育内容や行事の在り方について、再構築を進めている。

3 今年度の重点的項目

重点的に取り組んでいきたい事項-1	子どもが主体的に関わり、自己発揮できる環境を作る。
具体的な取り組み	
項 目	具体的な内容
(1) 自ら体を動かし、体を動かすことが楽しいと感じる環境をつくる。	ア 「36の基本的な動き」を踏まえた遊びの設定を行い、子どもと一緒に遊ぶなかで、体を動かす楽しさを伝える。 イ 子どもの実態を踏まえ、月3回園庭や屋内環境を見直す。
(2) 季節や自然を身近に感じ、五感で感じて遊べる園庭をつくる。	ア 既存の自然環境を活用しながら、ねらいや願いをもつて、子どもの感性を育む環境整備をすすめる。
(3) 絵本に親しみ、じっくりと楽しめる環境をつくる。	ア 子どもの発達や季節を考慮し、興味や関心を引き出す絵本環境を整える。週1回貸し出し絵本の機会を設ける。 イ 絵本の読み語りを通して、想像力や言葉の発達を育む。
重点的に取り組んでいきたい事項-2	周りの人と関わりながら、自分や他者を認め合う子どもを育てる。
具体的な取り組み	
項 目	具体的な内容
(1) 全職員が全園児の担任である意識を持ち、応答的に関わる。	ア 月1回以上保育中のエピソードをもとに話し合い、子ども理解を深め、適切な関わり方や援助の仕方を共有する。 イ 人権意識や、インクルーシブ保育について、研修や会議での学びを共有し、共通認識を図る。
(2) 保育者が一番の環境である自覚を持ち、関わり方の手本となる。	ア 保育者は、様々な価値観を受け止める意識を持ち、子どもの気づきや思いに共感し、言語化しながら関わる。 イ 保育を見合う機会を年2回以上設け、質の向上を図る。
重点的に取り組んでいきたい事項-3	保護者と信頼関係を築き、子どもの育ちを共有し、子育てを支える。
具体的な取り組み	
項 目	具体的な内容
(1) 園生活の内容や、子どもの姿をわかりやすく知らせる。	ア コドモンの写真掲出や、送迎時に直接話す機会を活用し、子どもの姿や、取り組みの過程を丁寧に伝える。 イ 子どもにとっての視点で話をする中で相互理解を図る。
(2) 家庭や関係機関との連携を密に行う。	ア 個人面談や保育参観を通年実施し、子どもの育ちを共有しながら、保護者の不安や悩みを受け止める。 イ 関係機関との連携を深め、最善の対応を考えていく。